

新潟県立植物園

植物園だより



ツルアリドオシ *Mitchella undulata*

その果実がアリドオシに似て、つる性なので、この名がついた。

山のやや湿った林床に生える常緑・つる性の多年草。日本では1属1種の植物。茎は、つる性で次から次へと枝分かれして、地表をはい、節から根を出して大株となる。葉は対生し小さく卵形・卵円形。質は厚く深緑色で光沢がある。

花は6月頃茎の先に2個ずつ接して付き、花冠は筒形で先が4裂し白色。株により雌ずいが長くつき出るものと、花柱が短く雄ずいが長く出るものとの2型がある。これは桜草と同様、自家受粉をさけるための仕組みと思われる。

果実は液果で2個づつ癒合して少し長めの球形となり、上部2ヶ所にそれぞれのがく片が残っている。9~10月頃赤く熟し非常に美しく人目を引く。

解説：富樫信平(抜粋)

教室

花と緑の教室

会場(または集合場所):花と緑の情報センター
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 10月11日(木)10:00~11:30
「植物園花散歩⑤」
定員:10名 参加費無料
講師:久原泰雅(県立植物園)
- 10月14日(日)10:00~11:30
「植物園花散歩⑥」
定員:10名 参加費無料
講師:田中良明(県立植物園)
- 10月14日(日)14:00~15:30
「親子教室「果物手もみジュースと果樹の観察②」」
※会場:温室内レストラン「和」
定員:10組 参加費:1,000円(おやつ付)
講師:石田恭子(フードコーディネーター)
- 10月21日(日)10:00~11:30
「コケ玉で楽しむ大文字草」
定員:15名 参加費:1,000円
講師:倉重祐二(県立植物園)
- 11月4日(日)13:30~15:30
「第3回カフェ deカルチャ
『羊毛でつくる洋ナシとリンゴのオブジェ』」
定員:10名 参加費:1,500円(材料代、お茶とスイーツ代)
講師:ナミキズミ(羊毛フェルトmurmur)・倉重祐二(県立植物園)
- 11月16日(金)11:30~13:00
「植物と食文化講座「地元素材で気軽にフレンチ」」
※会場:Bonne Chere(ボンヌシェール)新潟市秋葉区美善1-13-12
定員:20名 参加費:1,500円(ランチ付)
講師:鈴木清香(ボンヌシェールマネージャー)・倉重祐二(県立植物園)
- 12月2日(日)10:00~11:30
「クリスマスの寄せ植え」
定員:15名 参加費:1,500円
講師:林 寛子(県立植物園)
- 12月2日(日)13:30~15:00
「クリスマスの寄せ植え」
定員:15名 参加費:1,500円
講師:久原泰雅(県立植物園)
- 12月9日(日)10:00~11:30
「クリスマス飾りづくり」横長の玄関ドア飾り
定員:15名 参加費:1,000円
講師:榎舎道子(Plink Plonk)
- 12月16日(日)10:00~11:30
「ミニ門松飾り」
定員:15名 参加費:700円
講師:田中良明(県立植物園)

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 11月18日(日)まで
「オータムガーデニングショー 魅せる葉 ~オーナメンタルリーフ~」
- 10月10日(水)~11月18日(日)
「植物奇譚 ~越後七不思議の謎を追う~」
- 11月21日(水)~12月26日(水)「クリスマス展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 10月8日(祝・月)まで
「ようこそハワイアンキルトの楽園」
出展:伊藤真里子ハワイアンキルト教室
- 10月10日(水)~10月28日(日)
「植物園に集うアーティスト展」
出展:県内若手アーティスト
- 10月30日(火)~11月18日(日)
「ハーブアラカルト」
出展:JHS(ジャパンハーブソサエティ)新潟支部
- 11月21日(水)~12月9日(日)
「SOUVENIR(スーベニール)」
出展:マミフラワーデザインスクール
- 12月11日(火)~12月26日(水)
「クリスマスドライフラワー」
出展:フラスカールはな舞

特別展示●観賞温室第3室2階 ほか

- 10月2日(火)~10月28日(日)「大文字草展」
- 10月27日(土)・28日(日)「秋のいけばな展」
- 11月6日(火)~11月18日(日)「キク展示」

「温室入館無料デー」12月2日(日)

当園は12月で開園14周年を迎えます。皆様からの日頃のご愛顧に感謝し、この日に限り、どなたでも温室入館料が無料になります。

「クリスマス夜間開園」 12月23日(日)・24日(祝)・25日(火)

開館時間を19:30まで延長(入館締切19:00)

●観賞温室利用案内

開館/9:30~16:30(入館締切16:00)

入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)、小中学生100円

※土日祝日は小中学生の入館料無料

●観賞温室開館カレンダー(●休館日)■温室入館無料デー

10	11	12
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ ① 2 3 4 5 6	・ ・ ・ 1 2 3	・ ・ ・ 1
7 8 9 10 11 12 13	4 ⑤ 6 7 8 9 10	② 3 4 5 6 7 8
14 15 16 17 18 19 20	11 12 13 14 15 16 17	9 10 11 12 13 14 15
21 22 23 24 25 26 27	18 19 20 21 22 23 24	16 17 18 19 20 21 22
28 29 30 31	25 26 27 28 29 30	23 24 25 26 27 28 29

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分

一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分

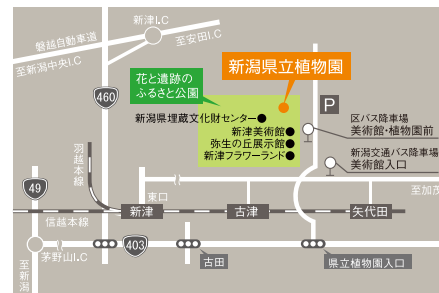
J R/信越線古津駅から徒歩約25分

バス/区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き

「美術館・植物園前」下車徒歩約1分

新潟交通:新津駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き

「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410

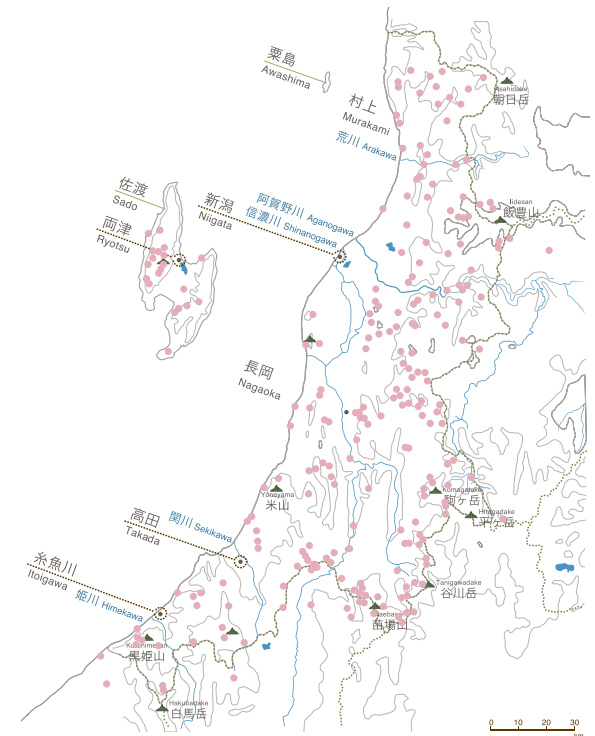
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp

ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/

指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ



Volume 50
2012 autumn



新潟県内の分布(新潟県植物分布図集 第八集より転載)

企画展示

クリスマス展 特別なクリスマスを植物園で

平成24年
11|21(水)–12|26(水)

今年の植物園のクリスマス企画展示は「感動200%! 千鉢のポインセチアでクリスマス」。日本最大級の圧倒的な鉢数のポインセチアで、彩りも鮮やかなクリスマスをお楽しみいただけます。

他にも、5mの高さのクリスマスツリーや、植物園ならではの花々と緑の木々との色彩のハーモニー、さらにイルミネーションも交えて華やかで格別な空間を演出します。ご家族、ご友人、カップルに特におすすめです。

12月2日(日)の開園記念日は観賞温室の入館は無料です。無料駐車場も完備しておりますので、ごゆっくり冬の植物園をお楽しみ下さい。

12月23日(日・祝)、24日(月)、25日(火)の3日間は開館時間を延長し、光り輝くイルミネーションに飾られた展示をご覧ください。



昨年のクリスマス展の様子



新潟県作出品種「越の淡雪」



大正時代に渡来した「マダム・モーリュウ」



昨年の展示のようす

企画展示

アザレア展 越後 西洋ツジ大観覧会

平成25年
1|4(金)–2|3(日)

西洋ツジの名は、明治時代にアザレアに対してつけられた名前です。その他にも洋種ツジやアザレア・インヅカと呼ばれていました。新潟県は明治末期から大正初期にアザレアを導入し、昭和10年ごろから全国に苗を供給する生産地となりました。以降、新潟県は日本のアザレア生産の中心地であり続け、現在は全国の90%を生産し、新潟の特産物のひとつとなっています。

今回の展示では新潟県立植物園の保有する200品種1,000鉢を数える全国一のコレクションを大公開します。特にアザレアの渡来当時の貴重な品種や、県内でつくられた最新品種は見逃せません。新春の華やかな展示をお楽しみください。



大正2年に描かれた西洋ツジ (横浜植木園芸植物図譜)

開花までに30年。
いつ咲くのが楽しみなキンシャチ



これはサボテン。柱サボテンの竜神木 (Myrtillocactus geometrizans)

園内
ウォッチング

温室 ●

サボテンと多肉植物は、砂漠や岩地などの過酷な自然環境でも生育できるように、水分を蓄えることができる多肉質の太い茎幹や葉、根をもつ植物です。乾燥した環境に耐えられるため、「寒さに弱くて、水をやるとすぐにダメになる。」と思われがちですが、一部の種類だけに当てはまることです。寒さに強い種類もありますし、案外水が必要な種類もあります。

サボテンと多肉植物の違いは、刺の有無です。刺座は、サボテンの先端などの毛が生えた、刺が出る部分です。サボテンに刺座はありますが、多肉植物にはありません。トウダイグサ科のハナキリンには刺がありますが、刺座がないので、サボテンではありません。ぜひ違いを見比べてみてくださいね。

当園の柱サボテンは、夏の終わりに蕾をたくさんつけましたが、夜に花が開くため、朝には花が終わってしまいます。ゲッカビジンやドラゴンフルーツも同じです。また、サボテンには開花するまでの年数があります。キンシャチは開花するまで30年前後かかると言われていますが、ドームのキンシャチの花は、いつ私たちを楽しませてくれるでしょうか? (赤塚祐佳里)



ディディエラ・マダガスカルエンシス (Didierea madagascariensis) やハナキリンは刺座がないので、多肉植物

園内
ウォッチング



ボルネオ島ムル山で見られたドングリ (マデバシ属の一種)



ナンキョクブナ科の樹木からなる森 (バブアニューギニア)



ミズノアラ(ミズナラとコナラの雑種)と思われる個体

園地 ● 園内のドングリを見てみよう!

ドングリとは、広義にはブナ科の果実を意味し、堅果(果皮が硬い果実)が殻斗(総苞が硬く変化したもの)に一部または全部が覆われているのが特徴です。「どんぐりまなこ」という言葉がありますが、これはクヌギを指すと言われます。

ブナ科の植物は北半球を中心に10属1,100種ほどが知られており、主に温帯にみられますが、東南アジアの熱帯雨林にも多くの種類が自生します。ちなみに南半球では、ナンキョクブナ科というブナ科に近縁な樹木が生育し、ブナ科の樹木と同じく、南半球の森をつくる主要な樹木となっています。

日本にはブナ科の樹木は22種見られますが、森をつくる重要な種が多いだけでなく、縄文時代前期の主食とされるクリをはじめ、大陸から米が伝わるまではトチノキの実と共にドングリは人の食料として大変重要だったようです。

当園の保有するブナ科の樹木には、日本産16種と海外産3種があります。ドングリは受粉したその年に果実が成熟するものと、受粉した年には大きくならず次の年の秋に果実が成熟するものがあります。次の年に成熟する種類の枝先付近には、まだ小さく未熟なドングリが見られます。また、ミズナラとコナラの雑種と思われるものなどもありますので、ご家族と共に観察いただき、ドングリ拾いを楽しんでいただければと思います。

(久原 泰雅)

日本のブナ科植物(ドングリをつける仲間)

科	属	種	成長期
コナラ亜科	コナラ属	コナラ	1年成 落葉樹
		ナラガシワ	
		ミズナラ	
		カシワ	
		クヌギ	
		アベマキ	
		ウバメガシ	
		アカガシ	
		ツクバネガシ	
		アカガシ	
アカガシ亜属	ウラジロガシ	2年成	
	オキナワウラジロガシ		
クリ亜科	マデバシ属	マデバシ	1年成 常緑樹
		シリブカガシ	
		シラカシ	
		ツブラジイ	
クリ属	クリ	2年成	
	ツブラジイ		
ブナ亜科	ブナ属	ブナ	1年成 落葉樹
		イヌブナ	

※黄色は当園で見られる種。
※受粉した年に果実が成熟するものを1年成、受粉した翌年に果実が成熟するものを2年成とした。



NEWS 1

エントランス広場をより美しく

エントランス広場の藤棚下に草花の植栽を行ったほか、園路灯にハンギングと散水設備を設置しました。

藤棚下の植栽は土壌改良を十分に行ったことで、植物が生き生きと育ち、園路灯のハンギングも散水チューブを直接ハンギングまで配管したことで今年の夏の猛暑も乗り切ることができました。

今後も皆様を花でお出迎えできるよう、エントランスをさらに彩って生きたいと思っておりますので、ご期待ください。(久原 泰雅)



NEWS 3

海外の植物園との交流

6月にイギリスのホイック樹木園のホイック卿(Lord Howick)とクオリーヒル植物園のマクナマラ園長(William A. McNamara)が来日し、日本に自生するサクラ属の調査を行いました。新潟では、当園の案内でオオヤマザクラ、エドヒガン、カスミザクラ、ウワミズザクラ、オクチョウジザクラ、イヌザクラの調査を行いました。

世界中の植物園では、様々な植物の多様性保全のために、栽培するだけでなくその植物の自生地や周囲の植物などを調査する活動が進められています。

また、今回訪れたホイック樹木園のあるホイック城は、紅茶のアール・グレイ発祥の地としても知られています。今後、これらの植物園と交流することで植物に関する様々な情報交換を行い、保全や展示に役立てたいと思います。(久原 泰雅)



NEWS 2

十二潟での総合学習

植物園では小学校の総合学習に協力し、これまでに数多くの学校で出前授業を行ってきました。

今年は新潟市北区の岡方第一小学校6年生、地域の岡方地区コミュニティと植物園が協力して、付近の十二潟の環境やそこに生えるアサザについて学習を行っています。

十二潟は、阿賀野川の三日月湖(河跡湖)で、アサザやガガブタが生える新潟では数少ない湖沼です。その河川開発の歴史や、環境省の準絶滅危惧種に指定されているアサザの生活、水深や水質などの生育環境、帰化植物のチクゴスズメノヒエの生育状況などを調査し、すばらしいふるさとの自然を理解し、残して行こうという取り組みです。

地域と教育機関が一体となって地域の自然を守る活動をこれからも植物園は応援して行きたいと思っています。(倉重祐二)



博物館実習企画展示設営の様子

NEWS 4

学生実習

植物園では、大学生等のインターンシップ、博物館実習を受け入れています。

今年はインターンシップ実習に植物の保全について学んでいる大学院生が1名参加されました。短い期間でしたが、バックヤードでの作業のほか、展示や教室の準備、自生地の観察など多岐にわたる業務を体験していただきました。

また博物館実習には3名が参加され、第3室の企画展示をつくりあげていただきました。今年は「お茶リンピック」と題し、世界中で飲まれているお茶をテーマにした展示になりました。茶葉や飾る道具などの調達を工夫して行っていたようです。

ほかにも、長岡農業高校や金津中学校の生徒さんが職場体験で来園され、園内のさまざまな仕事のお手伝いをしていただきました。

各実習に参加されたみなさんには、実習を経てさらに植物に興味をもっていただければと思います。(林 寛子)



新潟の植物

アキノノゲシ

Lactuca indica

道路の縁や荒地にごく普通に見られるレタスの仲間(アキノノゲシ属)の1年草または越年草。冬はロゼットで越冬し、春から夏にかけて葉を増やしながら成長する。夏から秋にかけて抽苔(ちゅうたい)／花をもつ茎が伸びることし、成長の良い個体は2mにまで伸び上がり、淡黄色の優しげな花を咲かせる。本来の開花は8月から10月なのだが、6月に開花する個体を稀に見ることがある。

沖縄では年中開花すると文献に記されているが、新潟でこの時期にもなぜ開花するのか調べたいと思い観察するのだが、田んぼの縁や道路の縁に生えているので、初夏になると刈り払われたり除草剤を散布されたりして中断を余儀なくされてしまう。

ノゲシの名が付く植物に春から花を咲かせるオキノゲシとノゲシがあるが、こちらはノゲシ属の植物である。

アキノノゲシの葉ほど個体によって形が異なるのも珍しく、ほぼ全縁(鋸歯がない)な葉を持つものから、深い切れ込みの入った葉をつける個体まである。葉色はたいがい緑色をしているが、春先には葉脈に沿って赤い筋の入った葉を持つ個体も見られる。

(田中良明)

●後から長い一言

説明が分かりにくかったかもしれません。要は、雌しべの長さが違う株がないと、アサザはタネができにくいのですが、十二湯で雄しべと雌しべの長さが同じでタネができる突然変異株が生えていたということです。

生物には多様性が必要なわけですが、現在のアサザの状況は、人間で例えると、自分の分身だけがたくさんいるけど、他人は誰もいない、子供もできないような状態です。その人が特定の病気に弱い場合など、一気に死に絶えてしまうことがあります。ですので、タネで子供をふやして、多様性を高める必要があるんですね。(倉重祐二)

NHK出版ウェブサイト「みんなの趣味の園芸」

植物園日記～電子書籍をパプーで公開中～

ダウンロードは無料です。PDF形式で、コンピューターやスマートフォン、タブレット型コンピューターでお読みいただけます。

- 検索は「パプー 新潟県立植物園」
- ダウンロードはこちらから

新潟県立植物園植物園日記2 (105p)
<http://p.booklog.jp/book/57881>

昨年度分の植物園日記も合わせてどうぞ (186p)
<http://p.booklog.jp/book/32962>



みんなの趣味の園芸セレクション

ちょっと興奮アサザの花 比べてくださいアサザの花

アサザは環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧種に指定されていましたが、各地での保全活動が功を奏して、2007年の見直しでサクラソウやサギソウと共に準絶滅危惧種にランクダウンしています。

さて十二湯のアサザですが、新潟大の学生さんの調査によって、すべてが等花柱花(雄しべと雌しべの長さが同じ)だったと調査会社の方からお聞きました。これは珍しいです!鼻血は出ませんでしたが、ちょっと興奮しました。

何が珍しいのかと言うと、アサザは株によって雌しべの長さが違うのが普通です(異型花柱性)。雄しべのに対して雌しべが短いのを「短花柱花」、長いのを「長花柱花」といいますが、虫が花粉を運んで雌しべが短い花と長い花が交配するとタネができます。長と長、短と短ではタネはつきにくいようです。

しかし、アサザは根(匍匐茎:ストロン)でふえますので、大きな池にたくさん生えているように見えても、実は一株であることがあります。これですと花柱も1タイプしかありませんので、タネはできません。日本の自生地を調べると、たくさん生えていても1株である場所が多いようです。数はあっても多様性は非常に低いのが現状です。

さて、十二湯のアサザは等花柱花と書きましたが、これは突然変異で現れるそうで、何と!自分の花粉でタネをつけるようです。もし、実生でふえていけば、雌しべが長いのと短いのが混じると思うのですが、等花柱花しか生えていないのであれば、現在は1株である可能性が非常に高いわけです。

聞くところによると、タネはできているそうです。アサザのタネは水に浮かび、水面を漂って、岸に流れ着きます。タネは水中では発芽しないので、田んぼに水を引くために水位が下がる春5月に発芽します。その後水位が上がると、水の中に根を伸ばし、匍匐茎を伸ばして水中に移動していきます。

そこで、実生をさがしてみると、水がしみ出ている岸辺にごく小さいのを発見!しかし、原因は分かりませんが、毎年芽は出ても水中にうまく根を伸ばせなくて枯れてしまっているようです。実生が育てばアサザの多様性も回復すると思いますので、引き続き観察していこうと思っています。

アサザの花は朝開き、午後にはしぼみ一日花

十二湯のアサザの花。中央の雌しべの長さが雄しべの葯の長さと同じ等花柱花



岸辺で見つけたアサザの実生

友の会通信

夏の植物観察会

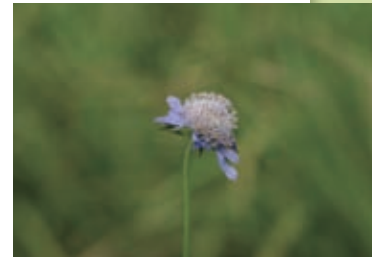
一日目は当間山。南魚沼市側魚沼展望台登山口から山頂を経て十日町市側の珠川登山口へ。

ブナ林の林床でジンバイソウやヒロハユキザサの果実などが観察できました。午後は森の学校キョロ口とその周辺を係の方に案内していただき見学し清津峡温泉に宿泊しました。

二日目は小松原湿原へ。雨が少なく、潤れたところもありましたが、ワタスゲやウメバチソウなどを観察することができました。天候が変わりそうになったため、早めに山をあとにしました。二日とも暑さが心配なくらい天気がよく、良い観察会になりました。



観察風景



マツムシソウ



ウメバチソウ



ヒロハユキザサ



集合写真



キョロ口見学



「かたくり粉の秘密」ジャガイモからデンプンをつくっているところ



「雑草染めハンカチづくり」

夏休み親子教室

夏休みに、友の会主催で教室を行いました。はじめての試みでしたが、「藍染め・雑草染めのハンカチをつくらう」や、「植物から紙をつくらう」、「顕微鏡で見てみよう」、「かたくり粉の秘密」など多彩な内容で開催し、参加されたみなさんには楽しんでいただけたようです。今後もご好評いただける教室を企画していこうと考えています。

クリスマス交流会のお知らせ

恒例のクリスマス交流会を12月23日に予定しています。申し込み方法など詳細は、今後の友の会通信号外でお知らせします。

新潟県立植物園 友の会 会員募集

植物園友の会は植物に興味があり、植物園の事業・活動に賛同いただける方の会です。会員を随時募集しています。詳細は友の会事務局(新潟県立植物園 TEL.0250-24-6465)までお問い合わせ下さい。

年会費(4月より翌年3月まで)

●個人会員 2,000円 ●ファミリー会員 2,500円 ●賛助会員(一口) 10,000円

会員特典:植物園観賞温室の入館無料、植物園だよりなどの送付

新潟県立植物園 友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員 〔わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています〕

●株式会社アート環境設計 ●株式会社アート